

史跡 斎宮跡

平成8年度現状変更緊急発掘調査報告

平成10年3月

明和町教育委員会

序

史跡齋宮跡は、指定面積が約137haにおよぶ全国でも有数の大規模史跡です。

昭和45年以来続けている発掘調査の面積は約18haに達し、時代による変化や、方格地割の規模、建物の配置などその様相が次第に明らかになりつつあり、注目度はますます高くなってきています。

しかし、齋宮の全貌を明らかにするには、まだまだ長い年月を要します。

この貴重な文化遺産を後世に残すため、地元地権者の協力を得て、昭和54年以来土地の公有化を年次的にすすめており、平成8年度末で約22haに達しております。

この公有化した土地は、昭和57年度から三重県により史跡整備が進められ、齋王まつりをはじめ各種行事の会場として活用され、県内のみならず県外からも訪れる人が多くなってまいりました。さらに、本年度から三重県教育委員会が事業主体となって齋宮駅の北側で実施される「歴史ロマン再生事業」の大規模な整備に着手していただいております、その完成に町民をはじめ、県内外から期待がよせられています。

さて、このように齋宮跡の保護・保存・活用が進むなか、一方では広大な史跡内に約600世帯におよぶ住民が生活している特殊性から生活に結びつく現状変更等許可申請書が数多く提出されます。

この報告書は、平成8年度に提出された現状変更の中で事前調査が必要であった6件についての結果をまとめたものであります。これらは小規模なものがほとんどであります。第117-5次調査では、史跡北部をめぐる鎌倉時代の大溝が確認され、これまでの推定を裏付けることとなりました。これらの成果の積み重ねにより齋宮跡の姿がより明確になることを期待するものであります。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力をいただきました地元地権者のみなさま、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた齋宮歴史博物館調査研究課に対してここに厚くお礼を申し上げます。

平成10年3月

明和町教育委員会

教育長 中山正美

例 言

- 1 本書は、明和町教育委員会が平成8年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
なお、第117-1・2・5・6次の発掘調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第117-3・4次の調査は、原因者が費用を負担して実施したものである。
- 2 調査は明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課及び明和町教育委員会斎宮跡対策課が担当した。
- 3 遺構の実測にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。
- 4 遺構の時期区分は、「斎宮跡の土師器（三重県斎宮跡調査事務所年報1984）」による。
- 5 遺構表示記号は、次のとおりである。
SB；掘立柱建物 SA；柵 SK；土坑 SD；溝 SE；井戸 SF；道路 SX；その他
- 6 特に標示がない限り、遺物の実測図は実物の4分の1、遺物写真は約3分の1である。
- 7 調査の実測図・写真等の関係書類及び出土遺物は、斎宮歴史博物館で保管している。
- 8 現地の発掘調査及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査研究課の駒田利治、野原宏司、上村安生、大川 操（旧姓 赤岩）、角正芳浩、石淵誠人と明和町教育委員会斎宮跡対策課の中野敦夫、森田幸伸があたり、熊崎司（京都府立大学々生）の参加を得た。
また、遺物整理等に当たっては島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子、西村秋子、杉原泰子及び松月浩子、八木光代の協力を得た。

目 次

| | | |
|---|----------------|----|
| 1 | 前 言 | 1 |
| 2 | 第117-1次調査 | 2 |
| 3 | 第117-2次調査 | 3 |
| 4 | 第117-3次調査 | 4 |
| 5 | 第117-4次調査 | 7 |
| 6 | 第117-5次調査 | 9 |
| 7 | 第117-6次調査 | 12 |
| | 付篇 史跡現状変更等許可申請 | 13 |
| | 発掘調査報告抄録 | 18 |

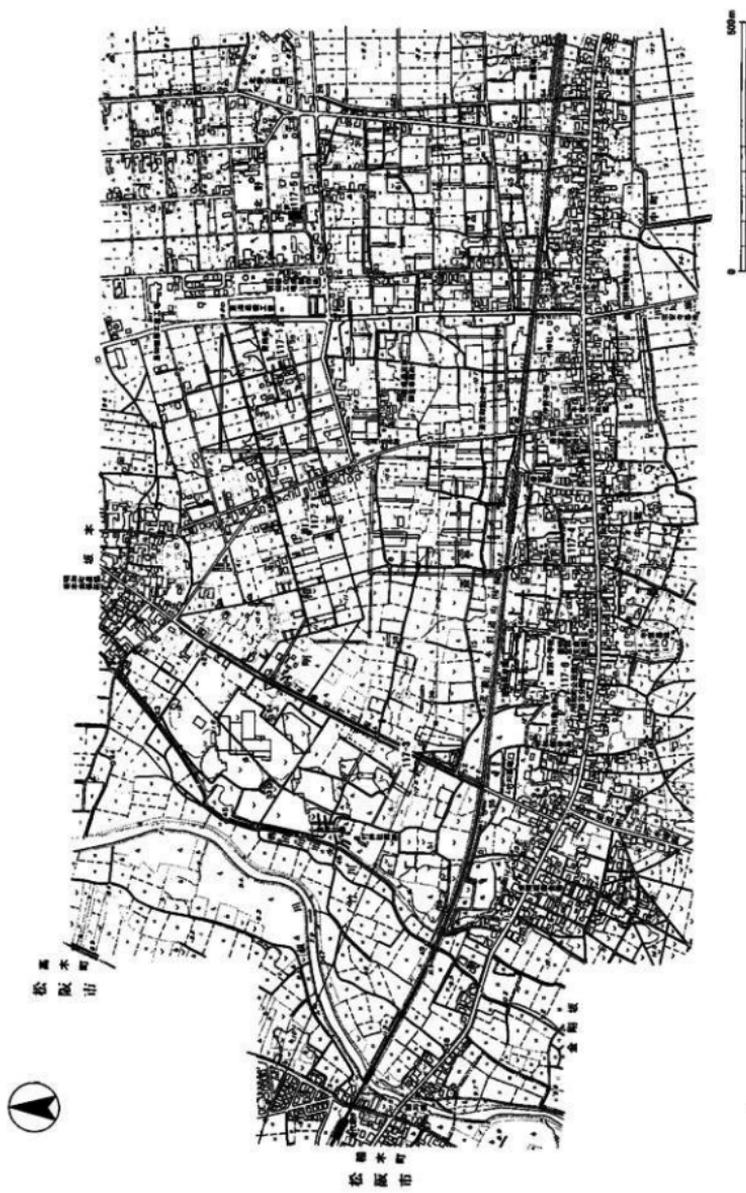
表・挿図目次

| | | | |
|-----|---|-------------------|----|
| [表] | 1 | 史跡現状変更等許可申請の推移 | 1 |
| | 2 | 第117-5次調査溝底レベル測定値 | 10 |
| | 3 | 平成8年度現状変更等許可申請一覧表 | 14 |
| | 4 | 第117次調査出土遺物観察表 | 16 |

| | | | |
|-----|----|-----------------------------|----|
| [図] | 1 | 発掘調査地区位置図 (1:10,000) | |
| | 2 | 第117-1次調査 調査区位置図 (1:5,000) | 2 |
| | 3 | ◇ 遺構実測図(1:200) | 2 |
| | 4 | ◇ 遺物実測図(1:4) | 3 |
| | 5 | 第117-2次調査 調査区位置図 (1:5,000) | 3 |
| | 6 | ◇ 遺構実測図(1:200) | 3 |
| | 7 | ◇ 遺物実測図(1:4) | 4 |
| | 8 | 第117-3次調査 調査区位置図 (1:5,000) | 4 |
| | 9 | ◇ 遺構実測図(1:200) | 5 |
| | 10 | ◇ 遺物実測図(1:4) | 6 |
| | 11 | 第117-4次調査 調査区位置図 (1:5,000) | 7 |
| | 12 | ◇ 遺物実測図(1:4) | 7 |
| | 13 | ◇ 遺構実測図(1:100) | 8 |
| | 14 | 第117-5次調査 調査区位置図 (1:5,000) | 9 |
| | 15 | ◇ 遺構実測図(1:200) | 9 |
| | 16 | ◇ SD7836・7837・7838断面図(1:50) | 10 |
| | 17 | ◇ 遺物実測図(1:4) | 11 |
| | 18 | 第117-6次調査 調査区位置図 (1:5,000) | 12 |
| | 19 | ◇ 遺構実測図(1:100) | 12 |

写 真 図 版

- P L 1 第117-1・2次調査 上;第117-1次調査区全景(東から)下;第117-2次調査区全景(南から)
- P L 2 第117-3・6次調査 上;第117-3次調査区全景(西から)下;第117-6次調査区全景(北から)
- P L 3 第117-5次調査 上;第117-5次調査南区全景(南から)下;第117-5次調査北区全景(南から)
- P L 4 第117次調査 遺物写真



第1图 発掘調査地区位置图 (1:10,000)

1 前 言

斎宮跡では史跡指定以来18年間で845件の史跡現状変更の許可申請が出されているが、平成8年度は例年より比較的少ないとはいえ、47件の申請が提出された。その内容は、史跡内住民による住宅や農業用倉庫の増築や改築或いは上水道及び道路の改修、新設等であり、許可条件に応じて事前の発掘調査或いは工事立会いを実施している。しかしながら、調査箇所が限定される等問題点も残されている。

ここに報告する緊急発掘調査は、個人の用に供する住宅及び車庫等の建築で補助対象事業となった3件と地域生活環境整備にかかる公共事業2件並びに民間業者による宅地開発1件で原因者負担として発掘調査を実施したものである。

第117次調査のうち史跡東部の平安時代に営まれた方格地割の区画内で実施したものは、町道側溝にかかる第117-4次調査のみであり、他の調査は史跡縁辺部の調査である。

第117-4次調査は、幅0.6m・延長80mの細長いトレンチ調査であり、鎌倉時代前半期を埋没時期とする東西方向の溝3条やわずかな柱穴を確認しているが、掘立柱建物としてまともところまでは確認できていない。

第117-5次調査は、史跡北東部で第37-1・4次調査(昭和56年度)の調査区に隣接して実施したものであり、史跡北辺部を弧状にめぐる鎌倉時代の大溝を確認しており、この溝と平行して数条の溝が確認されており、この「鎌倉時代大溝」の性格を解明する資料が得られた。

これら史跡現状変更に伴う緊急発掘調査は、様々な制約から必ずしも十分な調査とはいえず、遺跡の保存にとっても少なからず問題を抱えているが、斎宮跡の解明にとっては大きな一助となっており、調査上の制約や調査実施上の困難さを解決する必要がある。(駒田利治)

| 年 度 | 現状変更 申請数 | 発掘調査 件数 | 調査面積 (㎡) | 補助金事業 調査件数 | 補助金事業 調査面積(㎡) |
|-------|-------------|------------|----------|---------------|------------------|
| S. 54 | 33 | 17 | 3,968 | 12 | 996 |
| 55 | 60 | 12 | 1,281 | 10 | 815 |
| 56 | 53 | 12 | 5,416 | 10 | 696 |
| 57 | 50 | 8 | 657 | 7 | 577 |
| 58 | 52 | 16 | 3,757 | 10 | 1,440 |
| 59 | 30 | 15 | 2,884 | 12 | 1,589 |
| 60 | 39 | 8 | 1,260 | 5 | 1,014 |
| 61 | 54 | 12 | 1,845 | 9 | 1,507 |
| 62 | 57 | 16 | 2,854 | 13 | 1,620 |
| 63 | 46 | 17 | 8,820 | 7 | 1,131 |
| H. 元 | 57 | 16 | 7,091 | 9 | 1,061 |
| 2 | 58 | 8 | 1,397 | 5 | 914 |
| 3 | 46 | 3 | 1,550 | 1 | 1,190 |
| 4 | 41 | 6 | 895 | 5 | 825 |
| 5 | 48 | 8 | 1,670 | 6 | 1,090 |
| 6 | 35 | 6 | 1,360 | 4 | 1,032 |
| 7 | 39 | 2 | 587 | 1 | 480 |
| 8 | 47 | 6 | 709 | 4 | 613 |
| 合 計 | 845 | 188 | 48,001 | 130 | 18,590 |

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

2 第117-1次調査(6AEF)

| | |
|------|-------------------|
| 調査場所 | 多気郡明和町京宮字楽殿2894-1 |
| 原因 | 個人住宅新築 |
| 調査期間 | 平成8年9月6日～10月4日 |
| 調査面積 | 80㎡ |



第2図 第117-1次調査区位置図(1:5,000)

- 1) はじめに 今回の申請地は、史跡北辺部を東西に通過する町道塚山線(通称「歴史の道」)沿い南側の楽殿地区に所在する。この地区では住宅の新築等に伴い小規模ながら事前発掘調査が行われ、奈良時代及び鎌倉時代の遺構が顕著に分布することが知られる。

また、本調査地周辺では、昭和52年度に第17-4・17-5、17-8次調査が実施され、溝、土坑、小穴等が確認されている。さらに、本調査区の北側では 史跡北辺部を巡る鎌倉時代の大溝が通過することも想定されている。

2) 調査概要

イ 遺構

調査地の現況は畑地であり、16m×5mの調査区を設定し、面積は80㎡である。包含層は薄く、表土下0.2m～0.35mで地山面を検出した。調査の結果、木の根による攪乱が多くみられたが、主な遺構として溝3条と土坑1基を検出した。

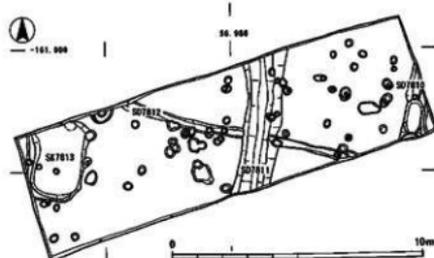
S D7810は、調査区東端で一部を検出した概ね南北方向の溝である。溝幅は約0.6m、深さは0.1m～0.15m、断面は浅い三日月状を呈する。S D7811は、調査区中央で検出し、S D7810と約5mの間隔を置いて並走する。溝幅約1.5m、深さ0.2m前後、断面は三日月状であるが、溝底のレベルはほぼ一定している。S D7812は、溝方向が東西に対してやや北側へ振る方位でS D7811に切られる。溝幅0.4m前後、深さ0.1m～0.15mで、溝底のレベルはほぼ一定である。

土坑S K7813は、調査区西端でほぼ全体を確認した。平面プランは、長方形で長軸3.3m×短軸1.8m、深さ約0.3mで、北辺には焼土が残存する。

表土及び包含層からは平安時代末期から鎌倉時代前期にかけての土師器杯・甕・鍋、灰釉陶器、山茶碗が出土した。

S D7810～7812からは土師器や山茶碗の細片等がわずかに確認されるだけである。

S K7813からは平安時代末期の土師器皿(1・2)・鍋(3・4)、山茶碗(5・6)が出土している。

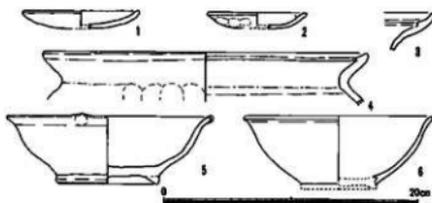


第3図 第117-1次調査 遺構実測図(1:200)

ハ まとめ

その他、黒色土器1片、瓦器1片、青磁18片が出土している。今回の調査では、平安時代末期～鎌倉時代前期の遺構・遺物を確認し、この地区では、斎宮の中心時期である奈良時代後期から平安時代にかけては、空閑地であったことが知られる。

(野原宏司)



第4図 第117-1次調査 遺物実測図
S K 7813; 1~6

3 第117-2次調査 (6 ACM)

調査場所 多気郡明和町斎宮字篠林3155・3156
原因 個人住宅新築
調査期間 平成8年10月21日～11月6日
調査面積 54㎡



第5図 第117-2次調査区 位置図 (1:5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡北辺部を東西に通過する町道塚山線（通称「歴史の道」）沿い南側の篠林地区に所在する。この地区では住宅の新築等に伴い小規模ながら事前発掘調査が行われ、奈良時代及び鎌倉時代の遺構が顕著に分布することが知られる。

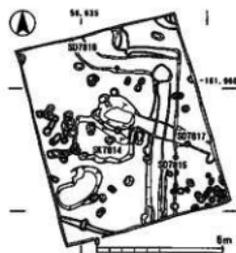
本調査地周辺では、昭和56年度に第33次、昭和61年度に第64-12次、昭和62年度に第70-12次、昭和63年度に第76-2次調査が実施され、溝、土坑、小穴等が確認されている。

2) 調査概要

イ 遺構

調査地の現況は畑地であり、8 m×6.75 mの調査区を設定し、面積は54㎡である。調査は、厚さ約0.2 mの表土層を除去し、黒ボク土からなる厚さ約0.2 mの遺物包含層の下層の橙色粘質土の地山面で遺構を検出した。調査の結果木の根による攪乱が多くみられたが、主な遺構として溝3条と土坑1基を検出した。

S D 7815は、調査区東部で鍵状に折れる幅約0.45 m、深さ約7 cmで黒褐色粘質土を埋土とし、北から5° 東に振り、南北方向に約6.7 mで西に直角に折れ、2 mほど続いて途切れる。S D 7816は、調査区中央部から東部において検出され、2度直角に折れ曲がる幅約0.6 m、深さ約0.1 mで、北から3° 東へ振りS D 7815とほぼ同じ方向を示す。重複しており、S D 7815より新しい。S D 7817は、調査区中央



第6図 第117-2次調査
遺構実測図 (1:200)

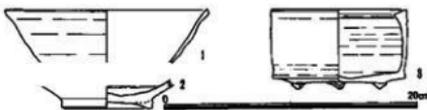
部で検出した、幅約0.5m、深さ約0.1mの溝で、西から15°北に振り、調査区中央でSK7814と重複関係にあり、先端部は、木の根と思われる凹地により攪乱される。SK7814より新しい。

口 遺物 表土及び包含層からの出土は極めて少なく、また遺構出土の遺物も少ない。整理箱全体で4箱のみの出土量である。遺構出土の土器は、時期の判別できるもので14世紀の山茶碗が土坑SK7814で出土している。SD7815からは、近世の陶器片も出土している。全体的には、内面に叩き圧痕をもつ須恵器甕の破片が目立つ。

その他、青磁2片が出土している。

ハ まとめ 今回の調査では、遺構面が木の根等により攪乱されている箇所が南半分を中心に広がり、小さなピット群はその根の痕と判断される。調査区を南北方向に延びる溝は、周辺の調査で確認されている方形周溝遺構の溝とは、時期が異なり室町時代のものと考えられる。

(赤岩 操、駒田利治)



第7図 第117-2次調査 遺物実測図
SK7814; 1、SD7815; 3、包含層; 2

4 第117-3次調査 (6ABJ)

調査場所 多気郡明和町竹川字中垣内地内
原因 町道竹川13号線の簡易舗装
調査期間 平成9年1月16日～1月31日
調査面積 48㎡



第8図 第117-3次調査区 位置図 (1:5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡南西部中垣内地内、県道南藤原竹川線から西側に延びる町道竹川13号線の簡易舗装に伴い、事前発掘調査を実施したものである。本調査地周辺では、斎宮跡発見の端緒となった昭和48年度第2次調査(古里A地区)をはじめとする計画調査や、個人住宅新築に伴う事前調査として平成5年度に第102-5次調査等が実施され、弥生時代の方形周溝墓、奈良時代や鎌倉・室町時代の掘立柱建物・溝・土坑等の遺構が濃密に分布することが知られる。今回の調査は、博物館南部、古里ひろば(史跡公園)南端沿いの現道部分を対象として、幅2m、長さ24mの調査区を設定し、面積48㎡である。

2) 調査概要

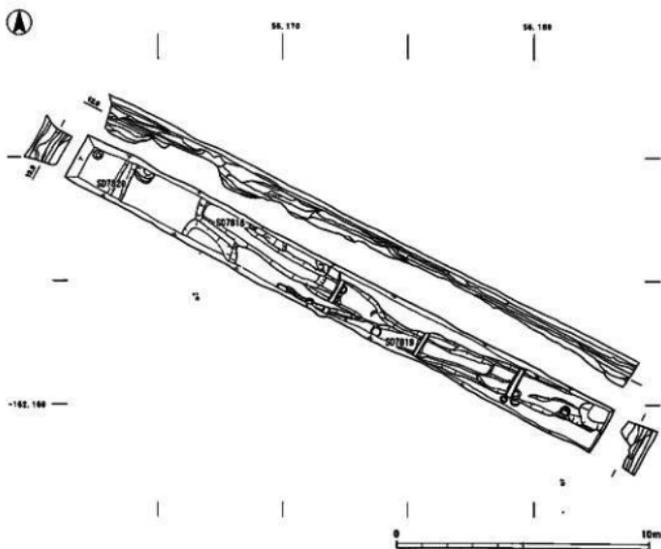
イ 遺構 表土下約0.7mで地山面を確認し、主な遺構として溝3条を検出した。SD7818は、調査区東半で検出した幅0.9m～1.1m、深さ0.1m～0.35mの溝で、断面形は逆台形を示し、

埋土は暗茶褐色である。溝底のレベルは、SD7819と重複する辺りを最高点として、西方及び東方に緩やかに傾斜する。SD7819は、SD7818に切られており、埋土は黒褐色土で、溝幅約0.7m、深さ0.15m～0.3mである。SD7820は、調査区西端で部分的に確認し、全体は明らかではないが、概ね南北方向に延びるものと考えられ、深さ約0.7m、断面形は逆台形をなす。溝幅は底面で約1.2m、上面では2.2m程度と推定される。

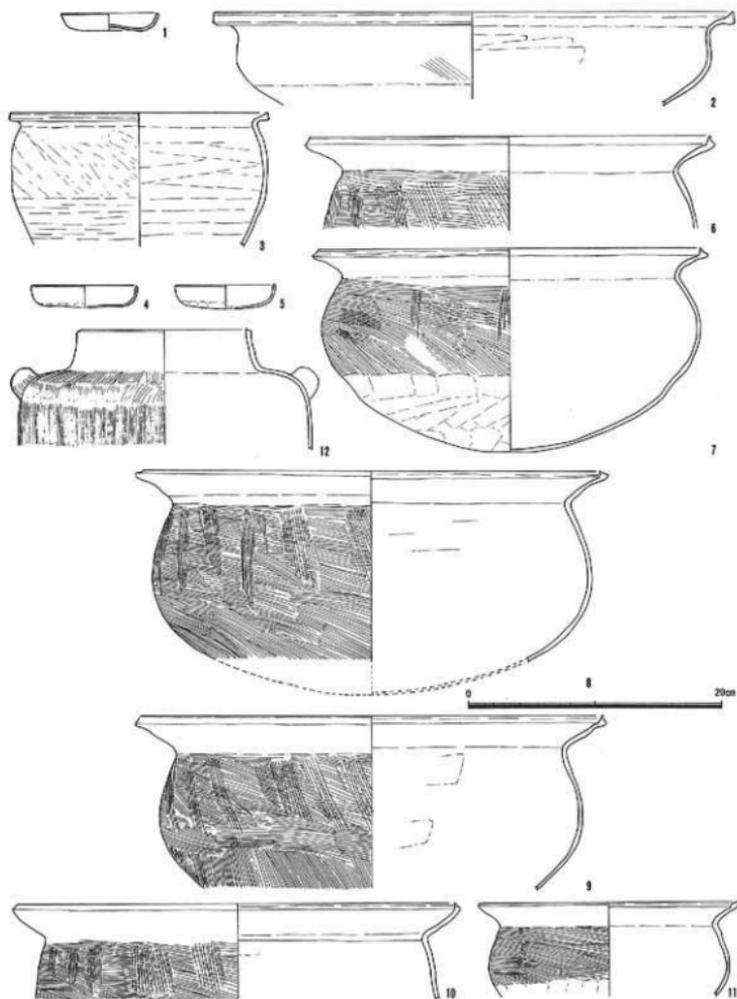
口遺物 SD7818～7820からは、土師器皿・甕等が出土している。皿(1)は、口径7.8cm・器高1.4cmで、口縁部はわずかに内弯してやや外方に開き、器壁は比較的厚い。甕(3)は、「く」字状に短く開き、端部で肥厚する。体部内外面とも板状具によるナデを上半外面では斜めに、下半では横方向に施し、ハケ調整は行われていない。

SD7819からは、土師器皿(4・5)、鍋(6～11)、茶釜(12)が出土している。鍋は、口径20.8cmの小形品で、口縁端部が折り返され、断面が偏平な形状を示す。(11)以外は、口径30cm～38cmの大形品で、口縁部が「く」字状に開く形状をなし、口縁端部が積み上げられ断面形が三角形となる。「く」字状に開く口縁部の形状から外弯気味に開く(6・7)、ほぼ直線的に開く(8)、内弯気味に開く(10)に区分できる。外面調整は、上半部を斜め方向にハケ調整し、下半部をヘラケズりする。ハケ調整が、下半部に及ぶものもみられる。なお、SD7819は、土師器を主体とし、山茶碗等の陶磁器の共伴は認められない。SD7819は、伊藤編年の第4段階のものと考えられる。(伊藤裕偉「中世南伊勢の土師器に関する一試論」【Mie history】vol.1 1990 三重歴史文化研究会)

この他に緑釉陶器1片、青磁片1片、土錘1点が出土している。



第9図 第117-3次発掘調査 遺構実測図(1:200)



第10図 第117-3次発掘調査 遺物実測図 SD7818; 1~3, SD7819; 4~12

- ハ まとめ 今回の調査区は、幅が狭小で遺構の性格を十分に把握できたとはいえないが、この地域における斎宮寮衰退期以降とされる室町時代の様相を知るうえで、調査成果の蓄積の一端となるであろう。
 (野原 宏司、駒田 利治)

5 第117-4次調査（6 ADP）

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛業地内
原因 町道既設側溝の改修
調査期間 平成9年1月27日～1月31日
調査面積 48㎡

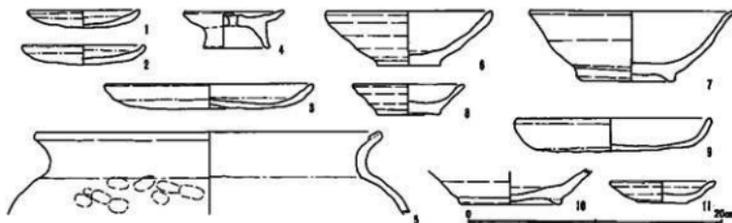


第11図 第117-4次調査区 位置図（1：5,000）

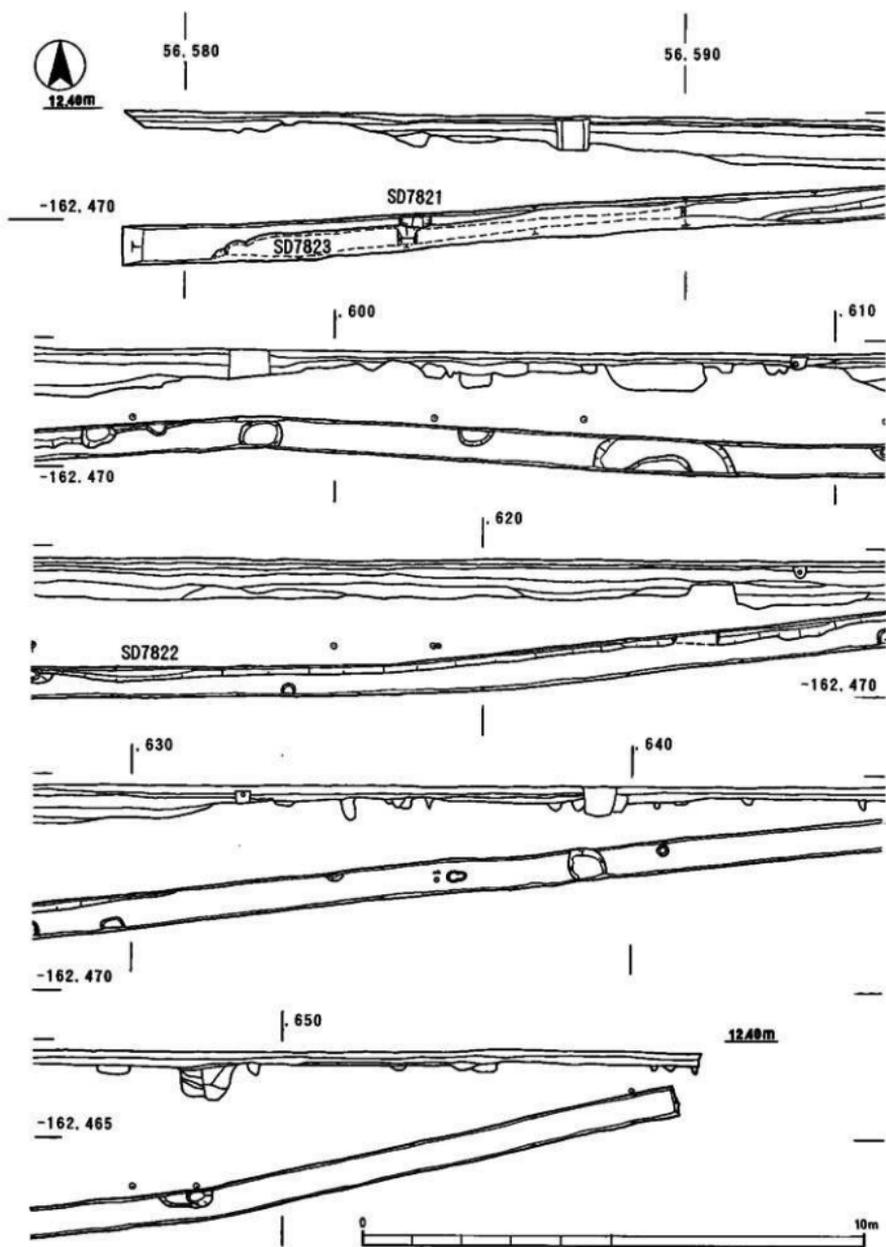
- 1) はじめに 今回の申請地は、近鉄斎宮駅南側の住宅密集地域において、町道斎宮15号線地内の既設U字溝及び既設排水管を渠型側溝に改修するものである。当該地域では第31-1次調査など現状変更に伴う事前調査が部分的に行われているが、遺構・遺物の実態がほとんど把握されていないところでもある。

2) 調査概要

- イ 遺 構 調査区は、側溝の改修工事に伴う掘削の範囲に合わせて設定し、幅約0.6m、総延長約80mの細長いトレンチとなった。遺構検出面までの深さは浅く0.2m～0.3mであった。大部分は既設のU字溝及び排水工事に際して破壊を受けていたが、SD7821やSD7822などの深い遺構はその底の部分が残っていた。SD7821は、溝底で幅0.4mであることを確認したが、SD7822は、調査区の北溝に少しかかるだけで規模は確認できなかった。SD7823はSD7821より先行する南北溝であるが、方格地割の南北溝とは位置が異なる。調査範囲が狭いため、掘立柱建物としてまとまるような遺構は検出されなかった。
- ロ 遺 物 SD7821とSD7822から鎌倉時代前半の土師器皿、山茶碗・山皿が出土しているが、その量は整理箱4箱と少ない。
- ハ まとめ 今回の調査では、東西溝2条と南北溝1条を確認した。その他、柱掘形と思われる小穴を確認しているが建物としてはまとまらなかった。また、遺構面が比較的浅いため、各所に既設排水管やU字溝の工事に伴う攪乱がみられた。今後は周辺地域での資料の蓄積と遺構の性格を解明していく必要がある。（上村安生）



第12図 第117-4次調査 遺物実測図 SD7821；1～8、SD7822；9～11



第13圖 第117-4次調査 遺構実測図 (1:100)

6 第117-5次調査 (6 AFC-M)

調査場所 多気郡明和町斎宮字北野3551-1他
原因 社宅の新築
調査期間 平成9年2月17日～3月17日
調査面積 465㎡

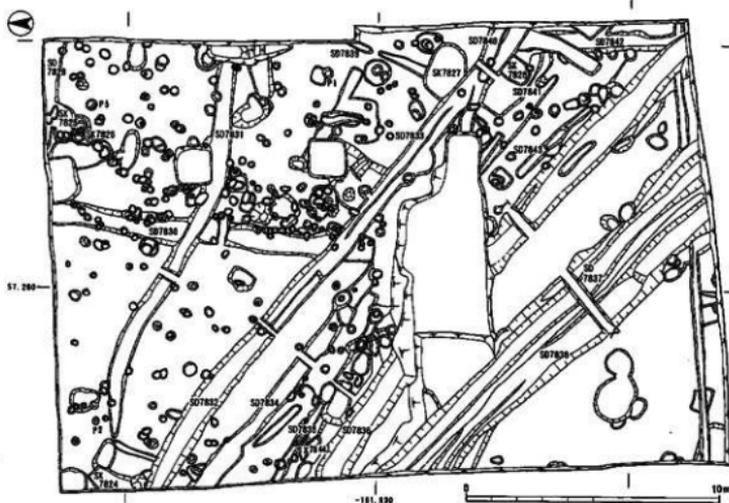


第14図 第117-5次調査区 位置図 (1:5,000)

- 1) はじめに 今回の申請地は、史跡北東部に位置し、戦前に軍の施設が建設されていたこともあり、部分的に遺構面が攪乱されていた。しかし、近接して調査された第37-1・4次調査(昭和56年)で確認されている史跡の北部を囲む鎌倉時代大溝のほか、並行する溝群を検出することができた。第37-1・4次調査では「水可鴨口」のヘラ描き土器が出土しており、斎宮跡の官衙配置を考察する資料を提供したが、周辺地区での調査は現状変更に限られ、その後昭和58年度に第48-5・6・12次、昭和62年度に第70-10・15次が実施されている。

2) 調査概要

- イ 遺構 調査地の現況は雑種地であり、戦前の軍の施設のためか遺物包含層が攪乱を受け認められない箇所もある。また、資材置場として利用されていたこともあり、山砂による盛土が行われており、わずかに残されている旧表土と推定される面から遺構面の深さは0.2



第15図 第117-5次調査 遺構実測図 (1:200)

m～0.4mであり、現況の盛土面からは0.5m～0.9mである。

遺構は、平安時代後期の土坑5基、溝1条、鎌倉時代初期の溝14条のほか小穴、土坑状の落ち込み等がある。SD7832・7833・7834・7835・7836・7837・7838は、ともにほぼ平行しており、調査区内での溝底レベル（第3表）及び地形からみて、溝としての機能から考えれば、北西から南東方向に流れるものと判断される。しかし、史跡北辺をめぐる鎌倉時代の大溝SD7837は、史跡西部で溝底レベル8.0m（第97-1次調査）をはじめとして、史跡内で確認された溝底レベルは、6.7m～8.6mと必ずしも東側が低いとは言いがたく（『史跡斎宮跡 平成6年度現状変更緊急発掘調査報告』参照）、鎌倉時代の大溝は、排水機能のみを重視するものとは考えがたい。

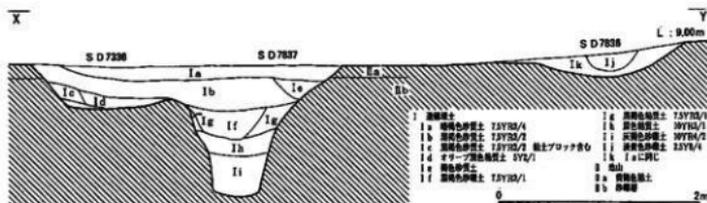
北西から南東方向に延びる溝群は、出土遺物からそれぞれの溝の埋没時期が12世紀後半から13世紀初期と近接しており、相前後して設けられたことがうかがわれる。

SD7837・7838は、第37-1・4次で確認されている鎌倉時代大溝に繋がるものであり、断面観察では両者の新旧関係は明瞭ではないが、遺構検出段階ではSD7837が新しいと判断できた。すなわち、上幅1.5mほどで西側に先行する深さ約0.45mの浅い溝SD7838の北肩を掘り込んで、上幅約2.1m、下幅約0.5m、深さ約1.3mの断面が箱型のSD7837が設けられたと考えられ、この状況は隣接する第37-1・4次調査でも確認されている。

SD7837の南側は、遺構密度が極めて稀薄な地区となっており、道路或いは築堤状の遺構の存在が推定される。ちなみに、第37-1・4次調査ではSD5の南にSD2428とSD2435に挟まれた道路SF2427を想定したが、今回の調査区内では両側溝は確認されていない。

| 遺構名 | 西端レベル | 東端レベル | 高低差 | 備考 |
|--------|-------|-------|-------|-----------|
| SD7832 | 8.57 | 8.50 | -0.07 | SD7833を含む |
| SD7834 | 8.73 | 8.63 | -0.10 | 調査区内で途切れる |
| SD7835 | 8.56 | 8.53 | -0.03 | 調査区内で途切れる |
| SD7836 | 8.37 | 8.21 | -0.16 | |
| SD7837 | 7.08 | 7.18 | +0.10 | 鎌倉時代大溝 |
| SD7838 | 7.98 | 8.00 | +0.02 | |

第2表 第117-5次調査 溝底レベル測定値



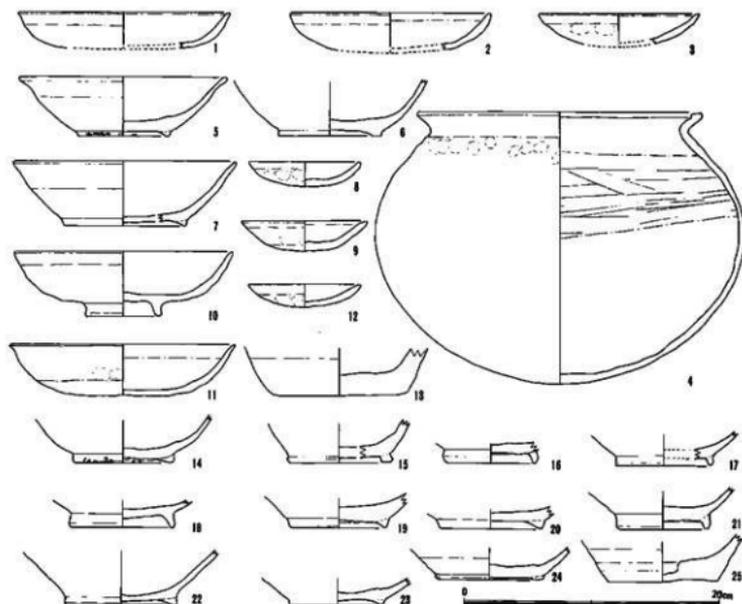
第16図 第117-5次調査 SD7836・7837・7838断面図（1：50）

口 遺物 包含層及び遺構からの遺物の出土は少ない。遺物の中心を占めるのは山茶碗であり多くは底部の破片である。その形状から、時期は藤澤良祐氏編年（『尾呂』瀬戸市教育委員会1990）の12世紀から13世紀前半に属するものと考えられる。（1～7）はまとめて出土したもので、いずれも内外面に火を受けた痕跡がみられ、一定の同時代性をもつ遺物群として評価できる。また、土師器小皿の（8）と（9）は同じ遺構の中から伏せられた状態で重なって出土しており、人為的に埋められた可能性も考えられる。

SD7838をはじめとする各溝からは、いずれも少量の山茶碗等が出土している。SD7837及びSD7838は、灰釉陶器と山茶碗が混在して出土しており、その年代は10世紀後半から13世紀とみられ、これは大きな時期幅をもつ。このことより、鎌倉大溝と従来呼ばれているこの溝の最終的な埋没時期は、今回の調査区においては13世紀後半と考えられる。（13）は中世陶器の底部とみられ、SD7832の中から出土した。

この他、今回の調査では灰釉陶器の底部や須恵器甕・ロクロ土師器の碗と、緑釉陶器6片、青磁1片、白磁2片、製塩土器3片、土錘1点が出土している。

ハ まとめ 今回の調査では、第37-1・4次調査で確認されていた鎌倉時代大溝の延長を確認し、史跡西部から大きな弧を描きながら史跡北部を取り囲んでいることを確認した。また、これと平行する溝群を数条確認しており、平安時代後期から鎌倉時代初期の斎宮との関係が目ざされる。（熊崎 司、駒田利治）



第17図 第117-5次調査 遺物実測図 SX7844；1～7、P5；8・9、P1；10、P2；11、P6；12、SD7832；13、SD7838；14～24、SD7837；25

7 第117-6次調査（6ACM-B）

| | |
|------|------------------|
| 調査場所 | 多気郡明和町竹川字東裏266-6 |
| 原因 | 個人車庫の新築 |
| 調査期間 | 平成9年3月5日～3月10日 |
| 調査面積 | 14㎡ |

- 1) はじめに 今回の申請地は、旧参宮街道沿いの住宅裏手にある畑地で、斎宮小学校前に位置する。

周辺では斎宮小学校建設に伴う第15次調査をはじめ、平成7年度には隣接地で第110-1次調査を実施しており、飛鳥・奈良時代の円形周溝・方形周溝が分布することが確認されている。

また小学校地の調査では四脚門が検出されるなど、方格地割西縁辺における様子をうかがうことのできる地点での調査である。

2) 調査概要

イ 遺構

調査区は、申請地の北東隅で幅1.8m×長さ8.0m、面積約14㎡を調査した。この申請地は現況畑地で、この一帯では従前より土壁の粘土を採掘したため低地となっており、畑土を相当量搬入したとのことであった。耕作土は厚さ約0.3mで、その下から明黄褐色の地山を検出している。

この調査区内では残存する遺構が認められず、粘土採掘の際のものと思われる攪乱坑を3基検出したのみである。

ロ 遺物

残存遺構が皆無であることから、遺構に伴う遺物はみられない。粘土採掘の攪乱坑から、土師器片が出土している。

ハ まとめ

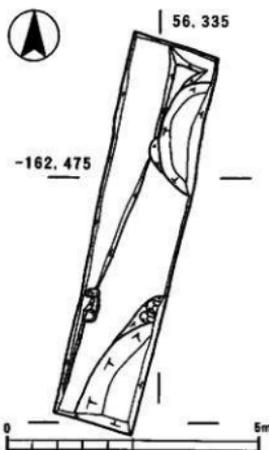
周辺調査の結果から、当該地区でも周溝遺構の存在或いは四脚門等に伴う掘立柱建物の存在が予想されたが、粘土採掘の攪乱坑により表土以下が搬入盛土によるものであることが判明した。

しかしながら周辺における調査箇所は斎宮小学校地を除くと極めて少なく、遺構残存状況を把握するためにも周辺部の調査を進めていかなければならないことが課題としてあげられる。

(赤岩 操)



第18図 第117-6次調査区 位置図 (1:5,000)



第19図 第117-6次調査 遺構実測図 (1:100)

付篇 史跡現状変更等許可申請

平成8年度中の齋宮跡にかかわる史跡現状変更等許可申請は、47件提出された。このうち史跡の実態解明のための計画的発掘調査にかかわるものが6件（うち1件は次年度実施予定の申請）のほか、個人住宅の新築等の現状変更に伴う事前の発掘調査が6件あった。

そのほかの35件については住宅密集地の宅地敷地内における増築や改築など比較的小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないもので、基礎掘削工事にあたっては齋宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立会いを実施している。

8年度の申請の内容は、一覧表のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理に伴うもの、（D）史跡の実態解明のための計画的発掘調査を実施するに当たっての申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は22件あった。そのうち保存管理計画における土地利用区分のうえで第三種保存地区に該当するところに住宅・車庫の新築および社宅の新築等の申請4件について事前の発掘調査を実施した。他の18件については個人住宅や農業用倉庫などの増築および改築等で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、これらは工事立会いを条件に許可を得ており基礎の掘削の深さが地下遺構まで達せず、史跡に影響を及ぼさず施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は13件の提出があり、その内容は、道路の舗装や側溝等の改修が8件、電柱等の設置が2件のほか防火水槽の設置、水道管の布設替え、橋梁の整備である。この内調査が対象となったものは、町道簡易舗装に伴う第117-3次調査と側溝の改修に伴う第117-4次調査の2件があり、その他は工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理に伴う申請

史跡の維持管理および活用にかかわる事業等について6件の申請が提出された。その内容は、史跡整備地内の樹木の移植等が3件のほか史跡を管理するための資材置き場の整地、齋宮跡出土遺物を収蔵する仮設プレハブの建設、史跡地内にある文化財の名称標柱の設置である。

（D）計画的発掘調査のための申請

これは、三重県教育委員会が主体となり、齋宮歴史博物館が担当して実施しているもので6件の申請が提出され、3,266㎡が調査された。これらの内容については齋宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野教夫）

第3表 平成8年度現状変更等許可申請一覧表

| | 申請地 | 種別 | 申請者 | 変更内容 | 申請受付日 | 許可日 | 変更面積 | 区分 | 備考 |
|----|--------------|----|----------------------|--------------|--------|---------|---------|----|---------------|
| 1 | 斎宮字篠林3144-2 | A | 阪井政文 | 個人住宅改築 | 8.4.5 | 8.6.3 | 82.4㎡ | 4 | |
| 2 | 斎宮字牛藁107 | A | 大西義孝 大西正次 | 個人住宅改築 | 8.4.17 | 8.5.10 | 97.27㎡ | 4 | |
| 3 | 斎宮字楽殿2819-2 | C | 明和町教育委員会 (斎宮跡対策課) | 管理用資材置場整地 | 8.5.8 | 8.6.17 | 757.64㎡ | 1 | |
| 4 | 斎宮字楽殿2894-4 | A | 中川聡樹 | 個人住宅新築 | 8.5.27 | 手続き中 | 85.29㎡ | 3 | 第117-1次調査 |
| 5 | 斎宮字上園3109他 | D | 三重県教育委員会 | 計画発掘調査 | 8.5.31 | 8.8.8 | 648㎡ | 1 | 第115次調査 |
| 6 | 竹川字東藁263-1 | A | 尾松邦彦 | 個人住宅増築 | 8.6.14 | 8.7.11 | 23.69㎡ | 4 | |
| 7 | 斎宮字楽殿2893-1 | A | 北川和也 | 個人住宅改築 | 8.6.27 | 8.7.11 | 34.79㎡ | 4 | |
| 8 | 斎宮字楽殿3218-4 | A | 中村勳一 | 個人住宅・倉庫増築 | 8.7.9 | 8.9.24 | 69.68㎡ | 4 | |
| 9 | 斎宮字篠林2890-7 | A | 藤川守 | 個人住宅増築 | 8.7.9 | 8.8.26 | 39.75㎡ | 4 | |
| 10 | 斎宮字上園3106他 | D | 三重県教育委員会 | 計画発掘調査 | 8.7.26 | 8.9.24 | 240㎡ | 1 | 第116-2-3-4次調査 |
| 11 | 斎宮字柳原2779-2他 | D | 三重県教育委員会 | 計画発掘調査 | 8.8.2 | 8.9.24 | 1,120㎡ | 1 | 第114次調査 |
| 12 | 斎宮字牛藁地内 | B | 明和町(建設課) | 町道舗装改修 | 8.8.9 | 9.9.19 | L=110m | 4 | 第117-4次調査 |
| 13 | 斎宮字篠林3155 | A | 伊藤龍也 | 個人住宅新築 | 8.8.14 | 手続き中 | 107.31㎡ | 3 | 第117-2次調査 |
| 14 | 斎宮字中西2404 | A | 岡田裕明 | 個人住宅増築 | 8.8.20 | 8.9.9 | 53.41㎡ | 4 | |
| 15 | 斎宮字牛藁3397-2 | A | 中川肇二 | 個人住宅改築 | 8.8.20 | 8.9.9 | 81.25㎡ | 4 | |
| 16 | 斎宮字北野3554-6 | A | (株)射和土木 | 社宅新築 | 8.8.27 | 手続き中 | 156.44㎡ | 3 | 第117-5次調査 |
| 17 | 斎宮字塚山3312他 | D | 三重県教育委員会 | 計画発掘調査 | 8.9.19 | 8.11.21 | 420㎡ | 1 | 第116-1次調査 |
| 18 | 竹川字東藁266-2 | A | 高木若素 | 個人の車庫建築 | 8.10.2 | 手続き中 | 56.8㎡ | 3 | 第117-6次調査 |
| 19 | 斎宮字篠林3173 | A | 山崎廣三 | 個人住宅ブロック塀の設置 | 8.10.2 | 8.10.16 | L=40.2m | 4 | |
| 20 | 竹川字東藁地内 | B | 明和町(建設課) | 町道舗装の修繕 | 8.10.3 | 8.11.11 | L=50m | 4 | |
| 21 | 竹川字古里地内 | B | 明和町(総務課) | 防火水槽の設置 | 9.1.24 | 9.2.23 | 24㎡ | 1 | |
| 22 | 斎宮字中西地内 | B | 明和町(建設課) | 町道舗装の修繕 | 8.10.3 | 8.11.11 | L=100m | 4 | |

| | | | | | | | | | |
|----|---------------|---|----------------------|--------------|---------|---------|----------|-----|-----------|
| 23 | 斎宮字篠林3148-4 | A | 森川博司 | 個人住宅改築 | 8.10.8 | 8.11.20 | 80.79㎡ | 4 | |
| 24 | 竹川字古里地内 | C | 勸国史跡斎宮跡保存協会 | 樹木の植栽 | 8.10.14 | 8.11.20 | L=120m | 3 | |
| 25 | 斎宮字楽殿2888-3 | A | 丸山勇一 | 個人住宅増築 | 8.10.21 | 8.11.11 | 66.25㎡ | 4 | |
| 26 | 竹川字古里503 | C | 三重県教育委員会 | 仮設収蔵庫の建設 | 8.11.27 | 8.12.17 | 307.15㎡ | 3 | |
| 27 | 斎宮字篠林3201他 | D | 三重県教育委員会 | 計画発掘調査 | 8.11.20 | 8.12.17 | 64㎡ | 1 | 第116-5次調査 |
| 28 | 斎宮字塚山地内 | B | 明和町(建設課) | 町道舗装 | 8.11.14 | 9.1.12 | L=180m | 3 | |
| 29 | 竹川字中垣内地内 | B | 明和町教育委員会 (斎宮跡対策課) | 町道簡易舗装 | 8.11.18 | 9.1.16 | L=432m | 3 | 第117-3次調査 |
| 30 | 竹川字東裏ほか地内 | B | 三重県 (松阪土木事務所) | 県道側溝改修 | 8.11.22 | 9.1.8 | L=259.6m | 4 | |
| 31 | 斎宮字牛業3032-1 | A | 澄野 衛 | 個人住宅ブロック塀の設置 | 8.11.25 | 8.12.12 | L=26.8m | 4 | |
| 32 | 斎宮字内山3043-1 | A | 乾 秀治 | 既設駐車場舗装 | 8.11.25 | 9.1.8 | 946.43㎡ | 4 | |
| 33 | 斎宮・竹川地内 | C | 文化財標柱設置 実行委員会 | 文化財名称標柱の設置 | 8.12.2 | 8.12.24 | 10本 | 3 | |
| 34 | 斎宮字牛業地内 | B | 明和町(水道課) | 水道管の布設替え | 8.12.9 | 9.2.7 | L=135m | 4 | |
| 35 | 斎宮字楽殿2890-5 | A | 宇田工務店 | 倉庫の建設 | 8.12.9 | 9.1.21 | 153.2㎡ | 4 | |
| 36 | 竹川字中垣内地内 | B | 三重県 (松阪土木事務所) | 橋梁の整備 | 8.12.9 | 9.1.21 | L=10.5m | 4 | |
| 37 | 竹川字東裏地内 | B | 明和町(建設課) | 町道舗装改修 | 8.12.12 | 9.1.12 | L=180m | 4 | |
| 38 | 斎宮字鈴館地内 | B | 中部電力(株) | 電柱支線の取付け | 8.12.18 | 9.2.17 | 1本 | 1 | |
| 39 | 斎宮字塚山3287 | B | 中部電力(株) | 電柱・支線の建植 | 9.1.22 | 9.3.3 | 1本 | 3 | |
| 40 | 斎宮字牛業109 | A | 富山隆一郎 | 個人住宅ブロック塀の設置 | 9.1.20 | 9.2.5 | L=21.4m | 4 | |
| 41 | 斎宮字中西613 | A | 山上 實 | 個人住宅新築 | 9.2.10 | 9.3.3 | 62.935㎡ | 4 | |
| 42 | 斎宮字塚山地内ほか | C | 斎宮歴史博物館 | 樹木の移植 | 9.2.27 | 9.3.19 | 59本 | 1・3 | |
| 43 | 斎宮字塚山地内 | C | 明和町教育委員会 (斎宮跡対策課) | 樹木の移植 | 9.2.19 | 9.3.5 | 163本 | 1 | |
| 44 | 竹川字南溝地内 | B | 三重県 (松阪土木事務所) | 県道側溝の改修 | 9.2.19 | 9.4.8 | L=130m | 4 | |
| 45 | 斎宮字木業山130-6 | A | 渡辺和明 | 農業用倉庫改築 | 9.3.5 | 9.3.26 | 60.5㎡ | 4 | |
| 46 | 斎宮字内山3046-16他 | D | 三重県教育委員会 | 計画発掘調査 | 9.3.21 | 9.4.8 | 950㎡ | 1 | 第118次調査 |
| 47 | 斎宮字鈴池332 | A | 八田秀穂 | 農業用倉庫の改築 | 9.3.28 | 9.6.2 | 101.72㎡ | 4 | |

第4表 第117次調査 遺物(土器)観察表

第117-1次調査

| No. | 出土遺物 | 器種 | 法量 | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 | 登録番号 |
|-----|---------|---|-----------------------------|--------------|--------|-------------------------------------|--------------------|-----|----------------------|------|
| 1 | S K7813 | 土 器 甕 (口徑) 8.4cm (器高) 1.6cm | 口縁部ヨコナデ、底部外周オキズ、内周ヨコナデ | 甕 | 良好 | 内: 黄 外: 黄褐色 | 5YR8/4 5YR5/6 | 25% | | ※1 |
| 2 | S K7813 | 土 器 甕 (口徑) 8.8cm (器高) 1.3cm | 口縁部ヨコナデ、底部外周オキズ、内周ナデ | 甕 | 良好 | 内: 黄褐色 外: 黄褐色 | 10YR8/3 10YR8/3 | 50% | 器形の歪み大きい | ※2 |
| 3 | S K7813 | 土 器 甕 (口徑) — (器高) — | 口縁部オリカニス後ヨコナデ | わずかに砂粒含む | 良好 | 内: 黄褐色 外: 黄褐色 | 10YR8/3 10YR8/3 | 5% | | ※6 |
| 4 | S K7813 | 土 器 甕 (口徑) 26cm (器高) — | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部外周オキズ、内周ナデ | 陶砂粒、器身わずかに含む | 良好 | 内: 黄褐色 外: 灰白～黄褐色(5YR7/1～10YR7/1) | — 10YR8/3 | 12% | | ※5 |
| 5 | S K7813 | 陶 器 山 茶 碗 (口徑) 16.8cm (器高) 5.3cm (高台径) 8.8cm | 口縁部ロコナデ、底部外周イトリ後ナデ、内周一定方向ナデ | ～8mm砂粒含む | 正立歪み焼成 | 内外: にぶい黄褐色 | 10YR7/2 | 40% | 内周自然焼跡から口縁部3分程度による焼化 | ※3 |
| 6 | S K7813 | 陶 器 山 茶 碗 (口徑) 15cm (器高) 5cm (高台径) 10cm | 口縁部ロコナデ | 砂粒少く陶片 | 正立歪み焼成 | 内外: 灰白 | 2.5YR8/1 | 12% | 内周自然焼跡から | ※4 |

第117-2次調査

| No. | 出土遺物 | 器種 | 法量 | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 | 登録番号 |
|-----|---------|--|---------------------|----------|----|-----------------|--------------------|-----|------------------|------|
| 1 | S K7814 | 陶 器 山 茶 碗 (口徑) 16cm (器高) — (高台径) — | 口縁部ロコナデ | ～3mm砂粒含む | 良好 | 内: 灰黄褐 外: 黄灰 | 10YR8/2 2.5Y6/1 | 10% | 灰黄褐小 | ※7 |
| 2 | 包含物 | 陶 器 山 茶 碗 (口徑) — (器高) — (高台径) 7.4cm | 底部外周イトキリ | 陶砂粒含む | 良好 | 内: 黄灰 外: 黄灰 | YR5/1 10YR8/1 | — | 底部変形 | ※8 |
| 3 | S D7816 | 陶 器 複 合 器 (口徑) 10.8cm (器高) 6.8cm | 口縁部・底部ロコナデ後底部外周ロコナデ | 甕 | 良好 | 内: 灰白 外: 黄褐 | 2.5Y7/2 2.5Y5/6 | 30% | 口縁部内面から底部外周黄褐色陶片 | ※9 |

第117-3次調査

| No. | 出土遺物 | 器種 | 法量 | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 | 登録番号 |
|-----|---------|-------------------------------------|--|-----------|----|------------------------|----------------------|-----|------------------------|------|
| 1 | S D7818 | 土 器 甕 (口徑) 7.8cm (器高) 1.4cm | 口縁部ヨコナデ、底部外周オキズ | 甕 | 良好 | 内: にぶい黄 外: 黄 | 7.5YR8/4 5YR7/6 | 30% | | ※9 |
| 2 | S D7818 | 土 器 甕 (口徑) 42cm (器高) — | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部外周ハケ部分焼化に焼る、内周ナデ、底部下半ヘラケナデ | 甕 | 良好 | 内: 黄 | 5YR7/8 | 12% | 外周口縁部以下部分付 | ※5 |
| 3 | S D7818 | 土 器 甕 (口徑) 20.5cm (器高) — | 口縁部ヨコナデ、底部外周上キ、内周イトキリ、底部下半ヨコナデ方向ナデ | 甕 | 良好 | 内: 赤褐 | 2.5YR4/6 | 30% | 底部腐付 | ※8 |
| 4 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 8.4cm (器高) 1.8cm | 口縁部ヨコナデ、底部オキズ | 陶砂粒わずかに含む | 良好 | 内: にぶい黄 外: にぶい黄 | 7.5YR8/3 7.5YR7/4 | 25% | | ※10 |
| 5 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 8.8cm (器高) 2.0cm | 口縁部ヨコナデ、底部外周オキズ | 陶砂粒わずかに含む | 良好 | 内: 黄褐色 外: 黄 | 7.5YR8/6 YR/ | 25% | | ※13 |
| 6 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 33cm (器高) — | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部腐層三角形、底部外周ナデ、内周ナデ | 甕 | 良好 | 内: にぶい黄褐色 | 10YR7/4 | 80% | 外周腐付 | ※2 |
| 7 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 30.5cm (器高) 16.5cm | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部腐層三角形、底部外周ナデ、内周ナデ、下半ヘラケナデ、内周ナデ | 甕 | 良好 | 内: にぶい黄 外: にぶい黄 | 7.5YR7/4 10YR8/1 | 25% | 外周腐付 | ※7 |
| 8 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 38cm (器高) 18cm | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部腐層三角形、底部外周ナデ、内周ナデ | 陶砂粒含む | 良好 | 内: 灰黄褐 外: にぶい黄褐色 | 10YR5/2 10YR8/3 | 30% | 外周腐付 | ※6 |
| 9 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 37.3cm (器高) — | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部腐層三角形、底部外周ハケ、内周ナデ、底部腐層不明 | 陶砂粒含む | 良好 | 内: 黄 外: にぶい黄褐色 | YR/ 10YR7/4 | 30% | 口徑やや歪み有り、外周腐付 | ※1 |
| 10 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 36cm (器高) — | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部腐層三角形、底部外周ハケ、内周ナデ | 陶砂粒含む | 良好 | 内: にぶい黄褐色 外: 黄 | 10YR7/3 10YR8/3 | 80% | 器形の歪み大きい 外周腐付 | ※3 |
| 11 | S D7819 | 土 器 甕 (口徑) 28.8cm (器高) — | 口縁部オリカニス後ヨコナデ、底部腐層三角形、底部外周ナデ、下半ヘラケナデ | 甕 | 良好 | 内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 | 7.5YR7/4 10YR5/4 | 25% | 器形の歪み大きい | ※11 |
| 12 | S D7818 | 土 器 複 合 器 (口徑) 13.8cm (器高) — | 口縁部ヨコナデ、底部外周ナデ、内周ナデ | 甕 | 良好 | 内: 黄 外: 黄褐色 | 5YR7/6 7.5YR8/6 | — | 口縁部・底部下半は焼化からヘラケナデで黄褐色 | ※4 |

第117-4次調査

| No. | 出土遺物 | 器種 | 法量 | 調査・技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存度 | 備考 | 登録番号 |
|-----|---------|--|-----------------------|---------------|----|--------------------|----------------------|-----|----------------|------|
| 1 | S D7821 | 土 器 甕 小 (口徑) 9.0cm (器高) 1.6cm | 口縁部ヨコナデ、外周オキズ後ナデ、内周ナデ | 甕 | 良好 | 内: 黄褐色 外: 黄褐色 | 10YR 8/4 10YR 8/3 | 80% | | ※4 |
| 2 | S D7821 | 土 器 甕 小 (口徑) 9.6cm (器高) 1.6cm | 口縁部ヨコナデ、外周オキズ後ナデ、内周ナデ | 甕 | 良好 | 内: 黄灰 外: 黄灰 | 2.5Y 8/3 2.5Y 8/3 | 80% | | ※10 |
| 3 | S D7821 | 土 器 甕 小 (口徑) 16.7cm (器高) 2.1cm | 口縁部ヨコナデ、外周オキズ後ナデ、内周ナデ | 甕 | 良好 | 内: 黄灰 外: 黄灰 | 2.5Y 8/3 2.5Y 8/3 | 40% | 外周の一部に腐付 | ※5 |
| 4 | S D7821 | 9分5厘 分付 甕 (口徑) 8.1cm (器高) 2.0cm | ロコナデ、全体の部分はロコナデ | 器型部片含む | 良好 | 内: 黄褐色 外: 黄褐色 | 10YR 8/3 10YR 8/3 | 80% | 中央に焼成腐層あり | ※3 |
| 5 | S D7821 | 土 器 甕 小 (口徑) 27.8cm (器高) — | 口縁部ヨコナデ、外周オキズ後ナデ、内周ナデ | 縦 2～3mm大の砂粒含む | 良好 | 内: にぶい黄褐色 外: 灰白 | 10YR 7/3 2.5Y 8/2 | — | 口縁部30% | ※7 |
| 6 | S D7821 | 陶 器 山 茶 碗 (口徑) 13.4cm (器高) 4.4cm | 内周外周ロコナデ、底部腐層部分付 | 甕 | 良好 | 内: 灰白 外: 灰白 | 8Y 7/1 8Y 7/1 | — | 口縁部30% 黄灰変存 | ※6 |

| No. | 出土遺物 | 形 状 | 法 量 | 調査・技法の特徴 | 胎 土 | 装 成 | 色 調 | 残存度 | 備 考 | 登録番号 |
|-----|---------|------|---------------------------|----------------------------|-----|-----|--------------|----------------------|----------------|------|
| 7 | S D7821 | 陶山茶碗 | (口徑) 16.3cm (器高) 3.7cm | 内外面ロクロナデ、底部部 取糸切痕、高台附ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 | 口縁部30% 高台残存 | R 1 |
| 8 | S D7821 | 陶山小 | (口徑) 15.6cm (器高) 4.4cm | 内外面ロクロナデ、底部部 取糸切痕 | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 3Y 8/1 3Y 8/1 | 口縁部60% 高台残存 | R 2 |
| 9 | S D7822 | 土師 皿 | (口徑) 15.7cm (器高) 2.7cm | 口縁部コナデ、外側オキエ ナデナ、内面ナデ | 青 | 良好 | 内：淡黄 外：淡黄 | 2.5Y 8/3 2.5Y 8/3 | 60% | R 8 |
| 10 | S D7822 | 陶山茶碗 | (口徑) — (器高) — | 内外面ロクロナデ、底部部 取糸切痕、高台附ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 | 高台60% | R11 |
| 11 | S D7822 | 陶山小 | (口徑) 8.6cm (器高) 1.8cm | 内外面ロクロナデ、底部部 取糸切痕 | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 | 50% | R 9 |

第117-5次調査

| No. | 出土遺物 | 形 状 | 法 量 | 調査・技法の特徴 | 胎 土 | 装 成 | 色 調 | 残存度 | 備 考 | 登録番号 | |
|-----|---------|------|--|--|-----|------|---------------------------|----------------------------------|------|--------|-----|
| 1 | S X7844 | 土師 皿 | (口徑) 16.6cm (器高) 2.9cm | 口縁部コナデ、底部外側 オキエ残ナデ | 青 | 良好 | 内：黄 外：黄 | 2.5Y 7/7 2.5Y 7/7 | 5% | R 1 | |
| 2 | S X7844 | 土師 皿 | (口徑) 18cm (器高) 3cm | 口縁部コナデ、底部外側 オキエ残ナデ | 青 | 良好 | 内：黄 外：黄 | 2.5Y 7/7 2.5Y 7/7 | 7% | R 9 | |
| 3 | S X7844 | 土師 皿 | (口徑) 12.6cm (器高) 2.8cm | 口縁部コナデ、底部外側 オキエ残ナデ | 青 | 良好 | 内：暗灰 外：暗灰 | 10Y 7/1 10Y 7/1 | 25% | R10 | |
| 4 | S X7844 | 土師 皿 | (口徑) 12.4cm (器高) 2.9cm | 口縁部外オキエ後コナ デ、外側オキエ、内面 上平イナデ、下平オキエ | 青 | 良好 | 内：黄 外：黄 | 10Y 7/1 10Y 7/1 | 50% | R11 | |
| 5 | S X7844 | 陶山茶碗 | (口徑) 16.4cm (器高) 4.8cm | 口縁部・底部ロクロナデ、 底部外側イトナリ、割痕 | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1 | 45% | R 3 | |
| 6 | S X7844 | 陶山茶碗 | (口徑) — (器高) — (高台径) 8.2cm | 底部ロクロナデ、底部外側 イトナリ・割痕 | 青 | 良好 | 内：灰白 外：黄 | 2.5Y 7/3 2.5Y 7/2 | 40% | R 4 | |
| 7 | S X7844 | 陶山茶碗 | (口徑) 17.5cm (器高) 5.2cm (高台径) 9.6cm | 口縁部・底部ロクロナデ、 底部外側イトナリ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1 | 25% | 自然物崩かる | R 2 |
| 8 | P 5 | 土師 皿 | (口徑) 8.8cm (器高) 2.0cm | 口縁部コナデ、底部オキ エ・割痕 | 青 | やや軟質 | 内：黄 外：黄 | 10Y 7/6 10Y 7/6 | 100% | R 5 | |
| 9 | P 5 | 土師 皿 | (口徑) 9.6cm (器高) 2.6cm | 口縁部コナデ、底部オキ エ・割痕 | 青 | やや軟質 | 内：黄 外：黄 | 10Y 7/6 10Y 7/6 | 100% | R 6 | |
| 10 | P 1 | 土師 杯 | (口徑) 17.2cm (器高) 5.2cm (高台径) 8.5cm | 口縁部コナデ、底部外側 オキエ・割痕、内面ナデ、 底部外側ナデ・高台ハツク ナデナ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 10Y 7/3 10Y 7/3 | 40% | R14 | |
| 11 | P 2 | 土師 杯 | (口徑) 16cm (器高) 4.1cm | 口縁部コナデ、底部外側 オキエ残ナデ・内面ナデ | 青 | 良好 | 内：黄 外：黄 | 2.5Y 7/7 2.5Y 7/6 | 40% | R15 | |
| 12 | P 6 | 土師 皿 | (口徑) 8.8cm (器高) 1.8cm | 口縁部コナデ、底部外側 オキエ残ナデ・内面ナデ | 青 | 良好 | 内：黄 外：黄 | 10Y 7/2 10Y 7/4 | 50% | R 7 | |
| 13 | S D7822 | 陶 皿 | (高台径) 8.2cm (器高) — | 底部ロクロナデ、底部外側 未割痕 | 青 | 良好 | 内：黄 外：黄 | 2.5Y 7/2 10Y 7/2 | 高部劣部 | R19 | |
| 14 | S D7822 | 陶山茶碗 | (口徑) — (器高) — (高台径) 7.6cm | 底部ロクロナデ、底部外側 イトナリ残ナデ、高台附 ナデ、高台に割痕 | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 自然物：灰白 | 2.5Y 7/1 3Y 7/1 3Y 7/2 | 25% | R22 | |
| 15 | S D7822 | 陶 皿 | (高台径) 8.2cm (器高) — | 底部ロクロナデ、底部外側 ナデ、高台附残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：黄 自然物：オリーブ灰 | 2.5Y 7/2 2.5Y 6/1 10Y 7/2 | 10% | R23 | |
| 16 | S D7822 | 灰釉陶鉢 | (高台径) 7.0cm (器高) — | 底部外側イトナリ、内面 ロクロナデ、高台附残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 10Y 7/1 2.5Y 7/1 | 30% | R16 | |
| 17 | S D7822 | 灰釉陶鉢 | (高台径) 7.4cm (器高) — | 底部ロクロナデ、高台附 ナデ、高台のあちま方形 | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 灰釉：灰白 | 5Y 7/2 5Y 7/1 7.5Y 7B/1 | 10% | R20 | |
| 18 | S D7822 | 陶山茶碗 | (高台径) 8.1cm (器高) — | 底部ロクロナデ、底部外側 イトナリ残ナデ、高台附 残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 自然物：灰白 | NR/0 2.5Y 7/2 10Y 7/2 | 15% | R21 | |
| 19 | S D7822 | 陶山茶碗 | (高台径) 7.4cm (器高) — | 底部ロクロナデ、底部外側 イトナリ残ナデ、高台附 残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 自然物：オリーブ灰 | NR/0 NR/0 10Y 7/2 | 30% | R20 | |
| 20 | S D7822 | 陶山茶碗 | (高台径) 8.5cm (器高) — | 底部内面ナデ、底部外側 イトナリ残ナデ、高台附 残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 自然物：オリーブ灰 | 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 10Y 7/2 | 30% | R17 | |
| 21 | S D7822 | 陶山茶碗 | (高台径) 4.8cm (器高) — | 底部内面ロクロナデ、外側 イトナリ、高台附残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 自然物：灰白 | 5Y 7/1 5Y 7/1 5Y 7/3 | 50% | 正立置ぬき | R25 |
| 22 | S D7822 | 陶山茶碗 | (高台径) 8.5cm (器高) — | 底部・底部ロクロナデ、高 台附残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 自然物：オリーブ灰 | 2.5Y 7/1 10Y 7/1 5Y 7/2 | 30% | R27 | |
| 23 | S D7822 | 陶山茶碗 | (高台径) 7.8cm (器高) — | 底部内面ロクロナデ、外側 イトナリ、高台附残ナ デ・割痕 | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 10Y 7/1 2.5Y 7/1 | 40% | R26 | |
| 24 | S D7822 | 陶山茶碗 | (高台径) 7.7cm (器高) — | 底部内面ロクロナデ、底 部内側仕上げナデ、高台 附残ナデ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 | 2.5Y 7/1 5Y 7/1 | 30% | R28 | |
| 25 | S D7822 | 陶 皿 | (高台径) 8.5cm (器高) — | 底部内面ロクロナデ、外側 イトナリ | 青 | 良好 | 内：灰白 外：灰白 自然物：灰 | 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/2 | 10% | R13 | |

| | |
|--------|---|
| ふりがな | しせきさいくうあと へいせい8ねんどげんじょうへんこうきんきゅうはくつちようさほうこく |
| 書名 | 史跡齋宮跡 平成8年度現状変更緊急発掘調査報告 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 三重県多気郡明和町齋宮跡埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 14 |
| 編著者名 | 駒田利治・野原宏司・上村安生・大川 操・中野敦夫 |
| 編集機関 | 齋宮歴史博物館 |
| 所在地 | 〒515-325 三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL 0596-52-3800 |
| 発行年月日 | 1998年3月25日 |

| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
|-----------|---------------------------------|-------------|------|-------------|-----------------|---------------------|------------------------|------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | | | ° ' " | ° ' " | | | |
| 齋宮跡 | 多気郡明和町齋宮他 | 24442 | 210 | 34° 31' 55" | 136° 36' 16" | | | |
| 第117-1次調査 | 齋宮字築殿2894-1 | | | 34° 32' 30" | 136° 37' 37" | 19960906 ~961004 | 80 | 住宅新築 |
| 第117-2次調査 | 齋宮字篠林3155,3156 | | | | | 19961021 ~961106 | 54 | 住宅新築 |
| 第117-3次調査 | 竹川字中垣内地内 | | | | | 19970116 ~970131 | 48 | 町道改修 |
| 第117-4次調査 | 齋宮字牛瀬地内 | | | | | 19970127 ~970131 | 48 | 側溝改修 |
| 第117-5次調査 | 齋宮字北野3551-1, 3553-4.5,3554-6 | | | | | 19970217 ~970317 | 465 | 社宅新築 |
| 第117-6次調査 | 竹川字東裏 266-6 | | | | | 19970305 ~970310 | 14 | 車庫新築 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 第117-1次調査 | 官 衙 | 平安末期 ~鎌倉 | 溝、土坑 | | 土師器、山茶碗 | | 鎌倉時代の大溝 | |
| 第117-2次調査 | | 室町~近世 | 溝、土坑 | | 山茶碗、陶器 | | | |
| 第117-3次調査 | | 室町 | 溝 | | 土師器、山茶碗 | | | |
| 第117-4次調査 | | 鎌倉 | 溝 | | 土師器、須恵器、山茶碗 | | | |
| 第117-5次調査 | | 平安後期 ~鎌倉 | 溝、土坑 | | 土師器、灰釉陶器、山茶碗、陶器 | | | |
| 第117-6次調査 | | | 掘乱坑 | | | | | |

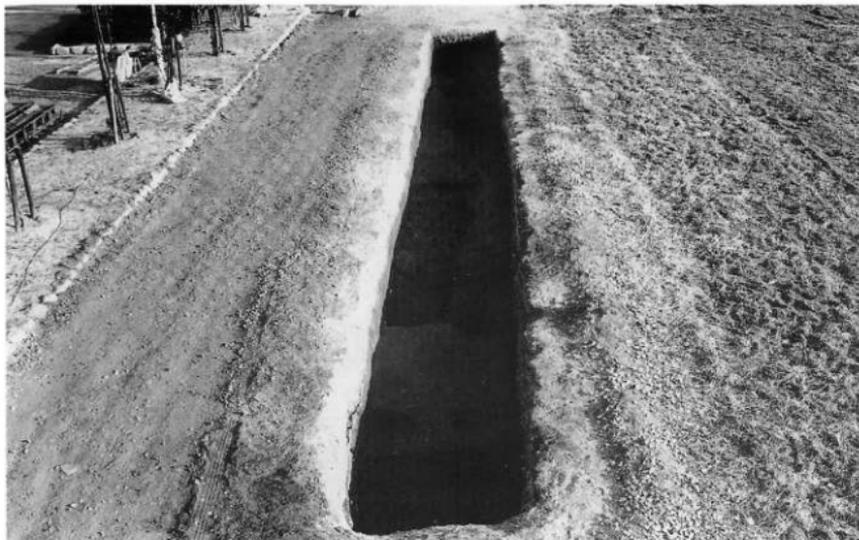
圖 版



第117-1次調査区全景（東から）



第117-2次調査区全景（南から）



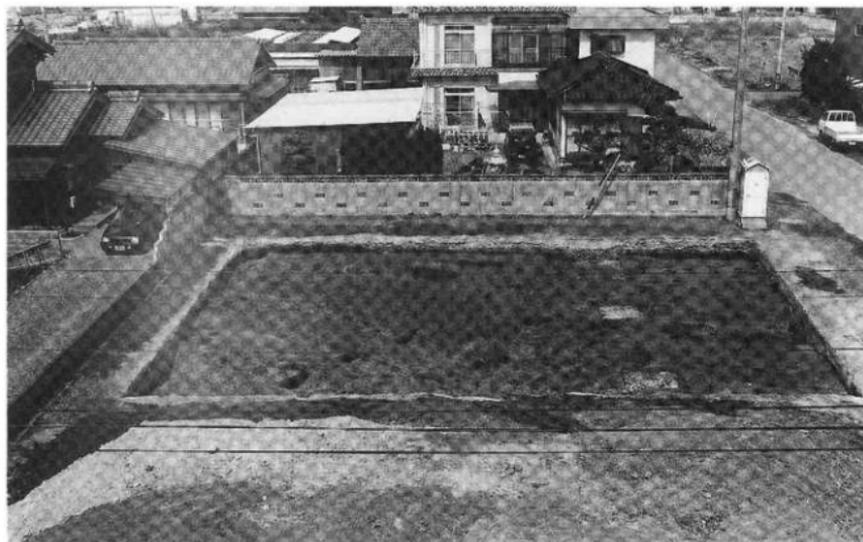
第117-3次調査区全景（西から）



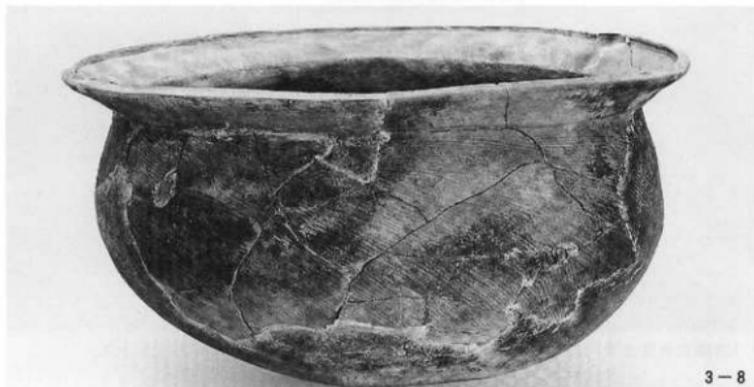
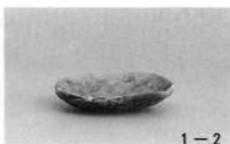
第117-6次調査区全景（北から）



第117-5次調査南区全景（南から）



第117-5次調査北区全景（南から）



史跡 齋宮跡
平成8年度
現状変更緊急発掘調査報告

平成10年3月25日

編 集 齋宮歴史博物館
明和町教育委員会
発 行 明和町教育委員会
印 刷 光出版印刷株式会社
